

遠いシリアの記憶

～子どもたちの3653日～

遠いシリアの記憶と子どもたちの3653日



夢をかなえた チャイルド

「死の電車」をよみがえらせる
— インドのジョセフさん —

Child's
DREAM
COME TRUE

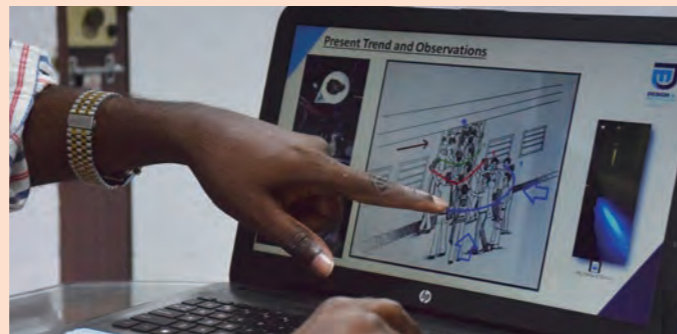
世界屈指の人口密度を誇るインドのムンバイ。1日800万人が利用する近郊の電車は、あまりの乗客の多さに事故が絶えません。その悲惨な現状を変えるべく、一人の青年が奮闘しています。

ジョセフさんは幼い頃に父親が職を失い、厳しい生活を送っていました。そんな時に会ったのがチャイルド・スポンサーシップでした。「学校の寮に入れたおかげで、勉強に集中するための環境、なにより栄養満点のご飯を食べられるようになりました」とジョセフさん。高校を優秀な成績で卒業した後、複数の仕事を掛け持ちしながら生計をた



幼い頃のジョセフさんと家族

て、大学に進学します。電気工学の学位を取得し、国内有数の企業に採用され活躍していたとき、悲しいニュースが飛び込んできました。闘病中だった父親が電車に乗った際、他の乗客に押されて線路に転落。怪我を負ってしまったのです。「電車の事故で悲しむ人を減らしたい」強い決意を抱き動いていた会社を退職し、独立します。線路の危険領域にいる人を検知してシグナルを発するシステムを開発し、何年にもわたって政府へ売り込みを続けた結果、2016年にインドの鉄道省の承認を得てムンバイの鉄道に導入されました。「とても光栄でした。父がもし生きていたら、どれほど誇りに思ってくれたでしょう」



システムの設計図を説明するジョセフさん

ジョセフさんは今や、地元の新聞や TED Talks に取り上げられるほど、社会に貢献した功労者として認められています。チャイルド・スポンサーシップの支援は、子どもたちの無限の可能性を引き出す一助になっています。



TED Talks のイベントに登壇したジョセフさん



チャイルド・スポンサーシップ、
募金のお申込みはこちら

電話でのお申込み ▶ 0120-465-009

WEB からの申込み ▶

World Vision News No.197 2021年6月発行 ワールド・ビジョンニュース

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2ハーモニータワー3F TEL 03-5334-5351 FAX 03-5334-5359

※新型コロナウイルス感染拡大防止への対応として事務局機能を縮小し、電話受付時間を短縮している場合がございます。ご了承ください。

dservice@worldvision.or.jp www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンは、キリスト教精神に基づき世界の子どもたちを支援している国際 NGO です

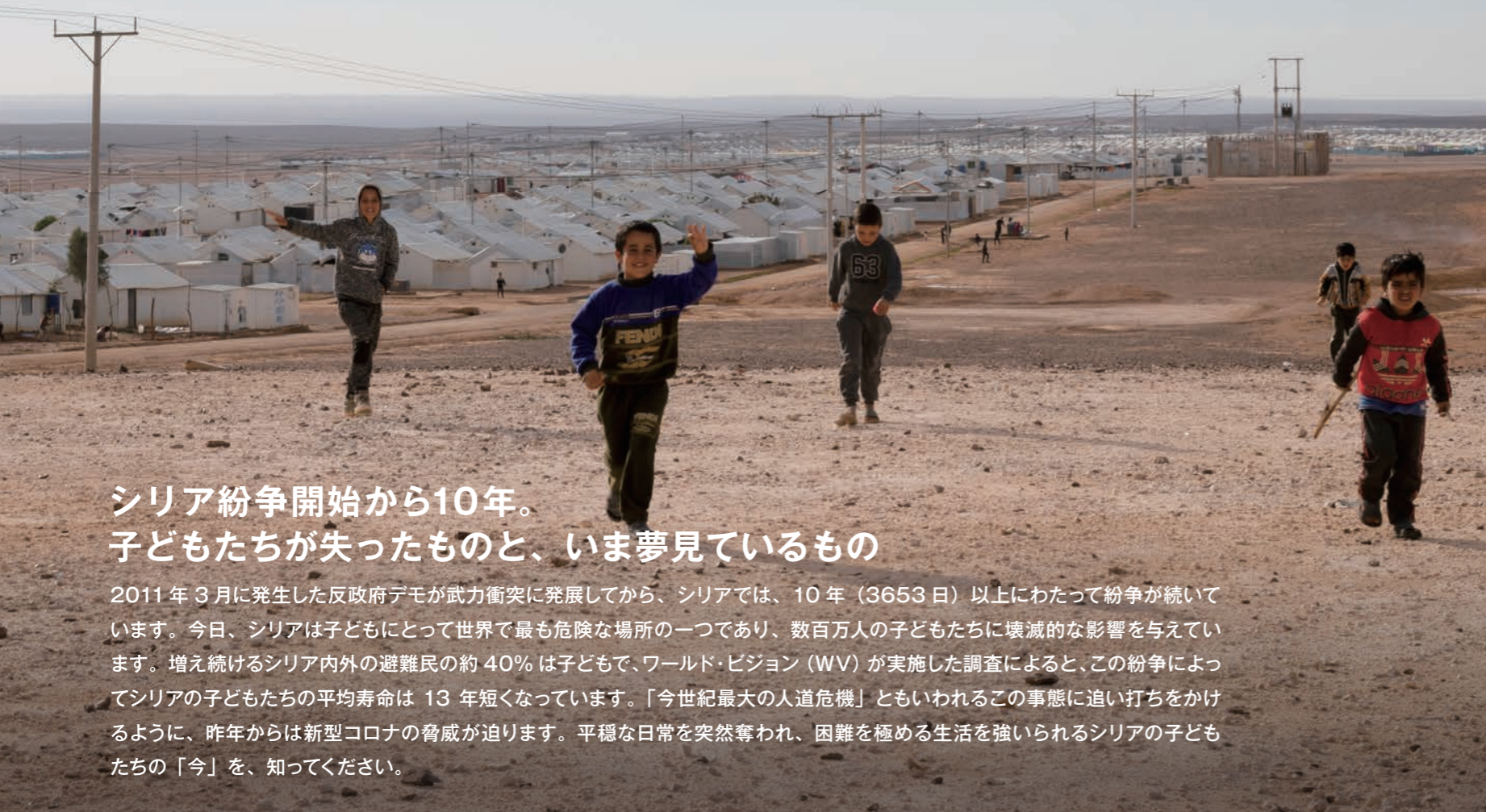
World Vision
この子を救う。未来を救う。

197

2021年夏号
ワールド・ビジョンニュース

遠いシリアの記憶

～子どもたちの3653日～



シリア紛争開始から10年。 子どもたちが失ったものと、いま夢見ているもの

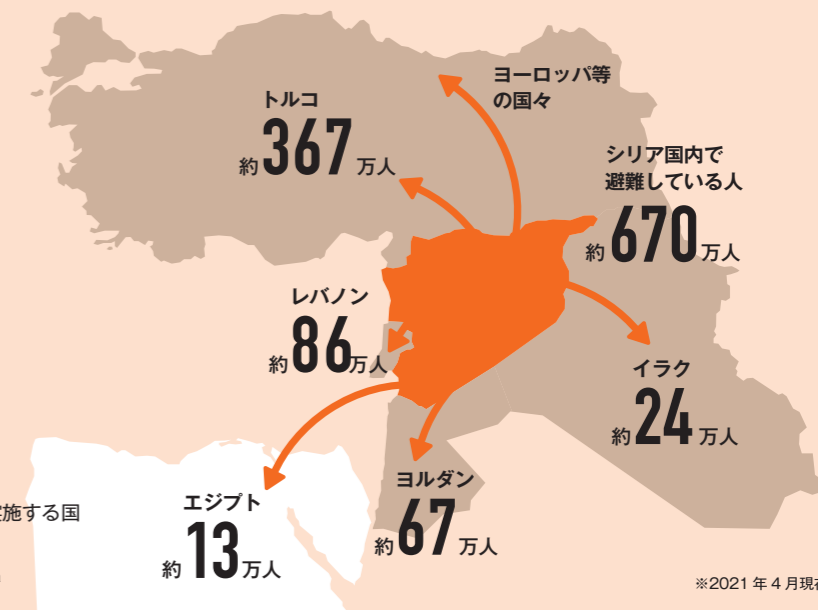
2011年3月に発生した反政府デモが武力衝突に発展してから、シリアでは、10年（3653日）以上にわたって紛争が続いています。今日、シリアは子どもにとって世界で最も危険な場所の一つであり、数百万人の子どもたちに壊滅的な影響を与えています。増え続けるシリア内外の避難民の約40%は子どもで、ワールド・ビジョン（WV）が実施した調査によると、この紛争によってシリアの子どもたちの平均寿命は13年短くなっています。「今世紀最大の人道危機」ともいわれるこの事態に追い打ちをかけるように、昨年からは新型コロナウイルスの脅威が迫ります。平穏な日常を突然奪われ、困難を極める生活を強いられるシリアの子どもたちの「今」を、知ってください。

美しく豊かだった祖国

紛争が始まる前年の2010年、古代都市ダマスカスやパルミラ遺跡等6つの世界遺産を有するシリアには、860万人の観光客が訪れていました。この数字は、当時の日本と同規模です。観光ガイドブックでは「世界屈指のホスピタリティを持つ国」と紹介され、治安も非常に良かったといえます。国民は教育や医療を無料で受けられ、シリアの義務教育就学率は98%を超えていました。多くの人々が、不自由のない豊かな暮らしを送っていたことが伺えます。



整然とした美しい街並みが広がる紛争前のシリア



子どもたちを取り巻く厳しい現状

美しかったシリアは、この10年で一変しました。度重なる戦闘で街は荒廃し、人々は豊かな暮らしを失いました。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）によると、シリア紛争によって、国外に逃れ難民となった人は約660万人、国内で避難生活を送る人は約670万人にもなります。

紛争が始まって以来、推定55,000人の子どもが殺害され、一部の子どもたちは処刑や拷問によって命を落としました。武装勢力によって徴用された子どもの約82%は実際に戦闘に動員され、その25%は15歳未満でした。WVがシリア北西部で行った調査によると、少女たちは性的暴行を受けることを恐れながら生活しており、重大な身体的・精神的危害や虐待をもたらす可能性のある児童婚は驚くべきレベルにまで増加しています。

戦闘で家を追われシリア国内で避難生活を送るアミナさん（18歳）は言います。「安全な家で暮らし、もっと教育を受けていれば、今頃私は社会の役に立つ人間になれていただろうと思います」10年間で失われたのは、子どもたちの未来です。



ワールド・ビジョンの支援

WVはシリア国内外で避難生活をおくる人々に対して、緊急物資の支援をはじめ、安全な水の提供、医療サービスの提供、衛生習慣の啓発等を行ってきました。また、難民の子どもたちが未来を創っていく力を育めるよう、補習授業等の学習支援事業にも力を入れてきました。この10年間で支援を届けた人々・子どもの数は、シリア、トルコ、ヨルダン、レバノン、イラクで合計12,771,719人に達します。



新型コロナウイルスの影響で学校が閉鎖された子どもたちのため、家庭学習用教材を届けました

支援活動の
主な分野



教育



子どもの保護



水衛生



医療



緊急支援物資

平和を夢見るシリアの子どもたち。 もし1日だけ世界の大統領になれたら—

10歳の頃を思い出してください。その時、あなたの人生はどうだったでしょうか？夢は何でしたか？
ここにいるシリアの子どもたちが夢見ていることは、ただ一つ。「平和」です。



「強い女性を描くのは、彼女たちになりたいから」自慢の絵をもって微笑むラーマちゃん

ラーマちゃん (10歳)

ラーマちゃんとその家族は、2013年にヨルダンのザータリ難民キャンプに逃れてきました。恐ろしい銃撃戦を経験し、彼女は心の傷を負いました。その後、家族とともにヨルダン北西部の町に移り、難民として生活しています。しかし、シリア人は自由に働くことが許されていないため、お父さんは安定した仕事に就くことができず、家族の生活は苦しい状況にあります。

そのような中でも、ラーマちゃんには情熱を注ぐものがあります。「絵を描いていると、自分の内側から何かが出てくるのを感じます」とラーマちゃん。WVの補習授業に参加する彼女は、先生やお母さんに励まされ、絵画の腕をめきめきと上げています。「強い女性を描くのは、彼女たちになりたいからです。1日だけ世界の大統領になれたら、争いを終わらせて、世界を良いものにしようとするでしょう。私は自分を変えてもっと強くなります」

ムアスくん (15歳)

編み物をする事で、ムアスくんはいまだに悩まされているシリア紛争の記憶を忘れることができます。2016年、故郷の町で暴動が起こり、彼は両親と5人のきょうだいと逃げ出しました。しかし家族は、途中の砂漠で道に迷い、3日をかけてようやくヨルダン国境にたどり着きました。

新型コロナによるロックダウン中にふと始めた編み物は、もう彼にはなくてはならない趣味になりました。「僕が好きなのはニット帽です。大切な人にあげると、僕の気持ちが伝わるような気がして」とムアスくんは言います。「もうこれ以上紛争が続いてほしくありません。1日だけ世界の大統領になれるなら、シリアが以前のように戻るよう働きかけます」



編み物を教えてくれたお母さんと。医者になる夢があるが、叶わなかったときに備えてビジネスの勉強もしている

ファティマさん (18歳)

2011年、8歳の時に故郷を逃げ出したファティマさん。ヨルダンでの生活は非常に厳しく、最愛の父親が亡くなると、家族の面倒を見てもらうためにファティマさんはいとこと結婚させられました。学校も辞めさせられました。夫とはすぐに別れたものの親戚がそれを許さず、連れ戻された彼女は第一子を出産。ファティマさんは希望を失いかけていました。

しかし、友人が教えてくれたWVのサポートセンターで心理的支援と職業訓練を受けると、ある夢を抱くようになりました。ソーシャルメディアを利用して、女性の権利を啓発することです。「1日ですべてを変えることはできませんが、世界の大統領になったら、2つのことをします。1つは世界中の戦争を終わらせること。2つ目は、女性のための新しい法律を制定することです。18歳未満の結婚を禁止します」



子育てをしながら勉強を続けるファティマさん



現地スタッフが見た子どもたち

ワールド・ビジョン 中東・東欧地域リーダー
エレノア・モンピオ

通常、子どもたちは驚くほどの回復力を持っているものですが、シリアで3653日以上にわたって続く破壊、死、負傷は、子どもたちから希望を奪い取りました。

私たちは、子どもたちや若者に「今、そして未来に何を求めていますか？」と尋ねました。すると彼らは、「お願いだから、紛争を止めて。家に帰ろう」「学校や病院や住む家を建てたいから、手伝ってください。争いを終わらせて、平和に遊ぼう」と答えました。

子どもたちや若者は変化を求めており、それは国際社会や私たちに対して求めていることです。私たち、そしてあなたの関与と支援が、シリアの子どもたちが豊かな暮らしを取り戻す一助になると信じて活動しています。

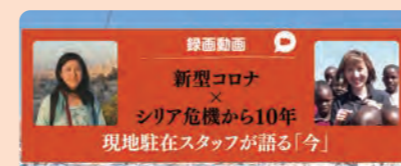
紛争から避難する子どもたちに迫る新型コロナの脅威。 子どもたちを感染症から守る、難民支援募金にご協力ください

シリア国内で避難した人々は、誰の所有でもない川沿いの土地や廃墟、自然発生的に形成された避難民キャンプ等に身を寄せています。紛争の影響下での避難生活は、1つの家に大勢が身を寄せるケースも多く、「3密」の回避等、日本で定着しつつある感染予防策を実践することも簡単ではありません。上下水道などの生活インフラがない地域で、テントや破壊された建物等を仮住まいとして、終わりの見えない日々を送っています。

学校や友だちとの日々、安心できる家等、あるのが当たり前と思っていたものを失い、未来への夢や希望をも失いつつある難民・避難民の子どもたち。

その命と未来を守るため、ワールド・ビジョンは、シリア国内避難民を多く受け入れるコミュニティで、安全な水、石けんや消毒液、マスクなどの衛生用品の提供や、下水管の修復等で、衛生環境の改善を進めています。コロナ禍で集会以制限される中、最前線のスタッフたちが、対象となる地域で戸別訪問をしています。

恐怖の中にある子どもたちが、
未来に希望を持てるように、
難民支援募金にご協力ください。



ヨルダンに駐在してシリア国内支援を担当する渡邊スタッフが登壇する、オンライン報告会を開催しました。その模様を録画でご覧いただけます。ぜひこちらからお申込みください。



グローバル教育のご案内

グローバル教育とは？

ワールド・ビジョン・ジャパンでは、日本の子どもたちが国際協力に関心を持つことを願い、途上国の子どもたちを取り巻く課題を、写真・映像、疑似体験等を通して学ぶグローバル教育を行っています。貧困や教育、人身取引(人身売買)、栄養、平和、紛争、難民、水衛生、多様性などのテーマからご希望に合わせ、幼稚園・保育園から大学生までを対象に幅広く実施しています。グループワークやディスカッションで学びを深め、水くみ体験等を通し、途上国の子どもたちの生活を疑似体験することもできます。2019年度は年間約8000人の方々にご参加いただきました。

授業の流れ

導入	世界の子どもたちクイズ
事例	テーマに合わせた具体的な子どもたちの現状を映像や写真で紹介
体験	水汲み体験やロールプレイ、ディスカッション、グループワークなど
まとめ	グループ発表や感想発表、質疑応答



参加者の声

東京都・小学5年生

この世界で学校に行けない子どもたちがたくさんいることを知った。この世界で差別がなくなれば世の中の人はずっと仲良くできるのになぜ差別があり、学校に行けない女の子もいるのか不思議でしかたない。差別がなくなれば困っている人はいなくなり、世界は明るい光を見られると思います。



実際に途上国で使われている道具を使って子どもたちの暮らしを実感します(2019年)

岐阜県・中学校教諭

総合学習で、「利益や売り上げを目的としない生き方を知る」という学習を行ってきました。ワールド・ビジョン・ジャパンのスタッフさんの、仕事に対する思いや生き方を語っていただき、「利益のためではなく、誰かのための生き方」に興味をもつ生徒が増えました。



小学生を対象にしたサマースクールの様子。グループワークで世界の問題への理解を深めます(2019年)

オンラインでも可能です。お気軽にお問い合わせください。

学校での対面授業だけでなく、ビデオ会議システムを利用したオンラインでの授業も可能です。世界の子どもたちや国際協力のテーマだけでなく、NGOで働くことについてお話することも可能ですので、キャリア教育の一環としてもご利用いただけます。



詳細・お申し込みはこちら

3分でわかるチャイルド・スポンサーシップ

チャイルド・スポンサーシップについて、ご支援者の皆さまからよくいただくご質問をクマネコが教えてくれるコーナーです。第3回は、支援終了についてお伝えします。

支援終了ってどういうこと？

「地域が支援終了になるとき」と、「チャイルドが支援終了(卒業)になるとき」の2つがあります。

現地での支援プログラムは通常、約10～15年かけて実施しています。チャイルド・スポンサーの皆さまのご支援によって、活動が順調に進み、**子どもたちの健やかな成長が地域の人々によって継続できると判断された時に、喜びとともにプログラムが終了します。**これが、1つ目の「地域が支援終了になるとき」で、チャイルドへの支援も終了となります。

プログラム終了時には、ご支援の成果をお伝えする終了報告書などをお送りするとともに、次のチャイルドをご紹介します。

なるほど！では、今紹介されているチャイルドは、支援地域のプログラム終了まで支援が続くということ？

プログラム終了以外にも、チャイルドの事情(支援地域外への引っ越しや、卒業・就職・結婚など)により、支援終了になることがあります。これが、2つ目の「チャイルドが支援終了(卒業)」になるときです。

チャイルド・スポンサーの皆さまにとっては突然のお別れになり、戸惑いや寂しさをお感じになるかもしれません。また、「卒業」「就職」などは嬉しい理由ですが、「結婚」は複雑に思われるかもしれません。ワールド・ビジョンでも早婚を防ぐための活動をしているのですが、現地スタッフがチャイルドとその家族とよく話し合い、その意思を確認・尊重し、支援を卒業するかどうかを決めています。

今も支援を待つたくさんの子どもたちのために、支援終了をお知らせする際には、次にご支援いただく新たなチャイルドをご紹介します。

チャイルド・スポンサーの皆さまからのご支援は、チャイルドにとって大きな励みとなっています。皆さまの日頃からの温かいご理解とご支援に心から感謝申し上げます。



支援終了イベント(バングラデシュ カルマカンダ地域)



終了報告書(カンボジア ボニャー・ルウ地域)



ケニアのオレントン地域の支援終了時の写真。元チャイルド(左)と支援活動の責任者(右)

選ぶ力を子どもに 選ばれる喜びをあなたに



それはチャイルド・スポンサーシップの新しい始め方

Chosen[チョーズン]は、貧困によって選択の自由を奪われている子どもたちが、自分の意志でスポンサーを選ぶことができるチャイルド・スポンサーシップの新しい始め方です。5月5日(こどもの日)から200人限定で参加者を募集、Chosen[チョーズン]を通して新たにチャイルド・スポンサーシップの輪に加わっていただきました。

スポンサーを選ぶ。子どもにとって生まれて初めての体験。

これまでただ支援を待っていた子どもたちは、Chosen[チョーズン]によって生まれて初めて「スポンサーを選ぶ」体験をします。それは自分の力で未来をつかむ選択です。その体験を通して「自分には人生を選ぶ力がある」ことを知り、未来に向かって成長するための大きな力を得ます。



スポンサーの写真を真剣に選ぶ男の子

子どもに選ばれる。スポンサーにとって喜びの体験。

一方、スポンサーは子どもたちから「選ばれる」という特別な体験を通して、深い心のつながりや支援する喜びを実感しながら、途上国支援に参加いただけます。



自分たちを選んでくれた子どもの写真と手紙を読むスポンサー

Chosen[チョーズン] 参加者の声



選ばれたことで自分も成長

ケニアのキカナエくん選ばれた峻さん。「彼が自分を選んでくれたから、自分にもっと自信が持てるようになった。働く上で大変なことがあっても、支援のためにもっと成長したい、もっと強くなりたい、と思えるようになった。数年後に会いに行くこと。それが自分の夢の一つです」

勇気を持って自分の道を選んで

ケニアのマーマちゃんから選ばれた緑さん。「好きな色が green と書いてあって、私の名前が green なので偶然とは思えない喜びがありました！お誕生日が私たち夫婦の結婚記念日と同じというのも不思議なつながりを感じます。いつか人生の岐路に立った時、勇気をもって自分の道を選ぶことができるようになってほしいと祈っています」



チャイルドに選ばれないということはありませんか？

お申込みいただいたスポンサーの人数と支援地域の子ども的人数を調整しており、お申込みいただいた方すべてが選ばれる対象になりますので、選ばれない方ができることはありません。支援地域での予期せぬ変更や、募集定員を超えた場合など、まれにご紹介できない場合は、次のChosen[チョーズン]の募集期間に優先的にご案内します。



Chosen[チョーズン] 第二弾もお楽しみに！

Chosen[チョーズン]で始めるチャイルド・スポンサーシップの次回のお申込み受付時期については、ワールド・ビジョンの公式HP、SNSでお知らせいたします。お見逃しなく。

Chosen[チョーズン]がよく分かる動画はこちらから！



“人生の証”を、未来につなげる 遺贈・相続財産からのご寄付をくださる方が増えています

「遺贈」は、遺言によって遺産の一部またはすべてを特定の個人や団体に無償で譲渡することです。また故人のご遺志を受け継いだ相続人が、相続財産から寄付することもできます。ワールド・ビジョン・ジャパンは十数年にわたり、これらのご寄付をお受けしています。

「子どもたちの教育のための学校を建設したい」「家族で訪れた思い出の地の子どもを助けたい」等、ご希望や想いをお伺いし、お気持ちを最大限尊重して、ふさわしい支援をご提案します。ここでは、よくいただく質問に回答します。

よくあるご質問

Q. 寄付はいくらから可能ですか？

A. 金額は自由です。故人または相続人の方のお気持ちを伺い、ふさわしい支援事業をご提案します。

Q. 包括遺贈も引き受けていますか？

また、不動産や有価証券なども寄付できますか？

A. はい、お受けしています。ただし、遺言内容や資産の換価が困難な場合など、お受けできないケースもあります。包括遺贈や現金以外の寄付をご検討の場合は、遺言書作成前にご相談ください。

Q. 相続税の優遇措置を受けられますか？

A. はい、受けられます。ワールド・ビジョン・ジャパンは「認定 NPO 法人」として東京都の認定を受けておりますので、相続財産の申告期限内（相続開始後の 10 カ月以内）に当団体に寄付をくださった場合、一部の場合を除き、その寄付額には相続税が課税されません。



相続財産からのご寄付により小学校に建設された図書館（カンボジア）



ご支援を記念したプレート（写真中央上部）には、故人と相続人の方のお名前が記載されています



小学校からの声

前の図書室はとても暗かったので本が読みづらく、結局僕も友だちも図書室には行かなくなりました。今は明るくきれいな図書室ができたので、とても嬉しいです。読みたい本がたくさんあります。友だちと毎日、図書館で過ごしたり、校庭の遊具で遊んだりするのが楽しみです。勉強がもっと楽しくなります。僕たちの学校を助けてくださり、ありがとうございます。

あなたご自身や、あなたの大切な方の財産を、子どもたちのより良い未来に役立てるため、ぜひワールド・ビジョン・ジャパンにお手伝いさせていただきませんか？まずはお気軽にご連絡ください。

■ 資料のご請求・お問合せは：「遺贈・相続財産による寄付担当」

TEL：03-5334-5351

Eメール：dservice@worldvision.or.jp



詳しいパンフレット（無料）もご用意しています

新型コロナに関する支援地域の状況をお知らせしています



世界を席巻する新型コロナの猛威について、支援地域の子どもたちへの影響を心配する声を多くいただいています。ワールド・ビジョン・ジャパンでは、チャイルド・スポンサーシップの支援地域における新型コロナ関連情報を、ホームページでご案内しています。（情報は随時更新されます）なお、チャイルド・スポンサーシップの支援地域に住むチャイルドに何かありましたら個別にご連絡いたします。

支援地域の状況アップデート



オンライン報告会も開催中！

支援地域での活動等をお伝えする報告会「ワールド・ビジョン・カフェ（WVカフェ）」をはじめとした活動報告会を、オンラインで定期的に開催しています。公式 HP からご確認ください。

お引越しされていませんか？

新年度が始まって 2 カ月、新生活を始められた方も少し落ち着いた頃でしょうか。チャイルドからの手紙や成長報告、グリーティングカード、寄付金控除等に必要な領収証等、大切な書類を確実にお届けするため、住所変更のご連絡をお願いいたします。

現在、新型コロナの感染拡大防止策として、電話受付体制を縮小しております。住所変更のご連絡やお問い合わせは、ホームページ上部の「お問い合わせ」フォームをご利用いただくよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

マイワールド・ビジョンから簡単にご変更いただけます。

ログイン後、「登録情報の確認、変更」よりお手続きください。



情報満載の公式 SNS をフォローください！

世界の子どもの現状、支援地域の様子、イベントの案内等、様々な情報が満載のワールド・ビジョン・ジャパン公式 SNS。あなたのフォローをお待ちしています。

FACEBOOK @worldvisionjapan

LINE LINE

Twitter @WorldVisionJPN

Instagram @worldvisionjapan

世界に思いをはせて Vol.8.

事務局長 木内 真理子



東日本大震災緊急復興支援で支援した小学校で、子どもたちと対話する筆者

3月で、東日本大震災とシリア危機の発生から 10 年が経ちました。震災からの復興はまだ道半ばです。シリアの紛争は終わらず、2019 年に家を追われた難民・避難民の数は 1,100 万人を超え国民の約 6 割に及んでいます。この 10 年、復興や平和に向かって力強く歩んでいる方々、若者、子どもたちに会うたびに、強く心打られました。私たちが簡単に整理できる 10 年では決してありません。そして今一度、社会に、世界に声を上げていきたいと思ひます。記憶が薄れること、無関心であることが、復興や平和を妨げる最大の敵であることを。